

(令和2年(2020年)秋掲載) 令和元年(2019年度)の学校経営計画及び学校評価 (高校部)

1. 目指す学校像

建学の精神である校訓三綱領の『一、履正不畏(りせいふい)：自ら正しいと信ずることを、何ものにも恐れず勇気と責任を持って実践する。二、勤労愛好(きんろうあいこう)：勉学に全力をつくし、人類の文化を継承発展させ、国家社会に貢献する。三、報本反始(ほうほんはんし)：初心にかえり、自分の今日あるのは縁ある人々(ご両親や恩師)のお陰であり、常に感謝と報恩の念を持ち、行動の指針とする。』の訓えをもとに、知性と豊かな人間性を有し、次世代を担える生徒の育成。

2. 中期的(令和2年(2019年度)教育指導 重点目標

(1) 知育尊重と人間教育

1. 進学指導の充実と進学実績の向上
2. 生徒を集中させる熱意ある教科指導
3. 文武両道の推進・強化クラブの戦績向上

(2) 創立100周年に向け、優れた進学校私学履正社として更なる飛躍を目指すため、ニーズに応える信頼づくり

1. 生徒・保護者・中学校からの信頼づくり
2. 地域に信頼される学校づくり

(3) 環境・システムの醸成

1. 心豊かで潤いのある学校生活

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和元年(2019年度)度末実施]	【学校運営協議会 構成メンバー】 学校長・副校長・教務部長・生徒指導部長・進路指導部長・保護者会会長 学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】</p>	<p>*令和元年(2019年度)教職員による自己評価、及び生徒・保護者による関係者評価に基づき、昨年度(内容によっては過去3年間)と対比しながら総括する。</p>
<p>・学校生活は楽しい。 (R.元年(2019年度)度：75.5% H.30年度：68.9%)</p>	<p>【第1回】(2019.5.11 11:00～約1時間) 本年度の中期的重点目標内容を保護者会会長に説明、賛同を得る。また、“大学入試改革”を見据え、昨年度より新システムとして集約文理コースに取り入れた、“選べる課外活動”(保護者会からの要望として伺っていた、『子供達の学校生活に潤いを!』も同時に満たす内容である)の取り組み状況を説明。1・2学年での活動の2年目になる取り組みも、学年を超えての活動となり、スムーズに進行していることに安心して頂くと同時に、更に充実した活動となること(次年度は全学年での活動となる)に期待を寄せられる。</p>
<p>・授業に先生方の熱意が感じられる。 (R.元年(2019年度)度：81.6% H.30年度：79.3%)</p>	<p>【第2回】(2019.10.19 13:30～約1時間) 各強化クラブの活躍の話題になる。全国レベルでの大会に、部員はもちろん、在校生、教職員、保護者、卒業生全てが一丸となり参加した。特に、保護者会の皆さんの特段のご協力に対して、中・高保護者会会長に感謝の意を表した。それに対して、生徒、保護者も今まで経験したことのないことを経験できた満足感、特に生徒たちの日々の学校生活での大きな励みとなったことを述べられた。今後も、保護者としても可能な限り、協力をして頂けることや全在校生が今年度のように応援に参加できる機会を作ってもらいたいことにも言及された。学校としても、可能な限り、高校生活を充実させるために、生徒の健康面、安全面に留意しながら、生徒の行動力や表現力を身に付けさせるためにも多くの機会を提供できるように心掛けると答える。</p>
<p>【保護者】</p>	<p>【第3回】(2020.3.2 15:30～約1時間30分) ①昨年度同様、一年も終わりの時期のアンケートで、保護者の8割が肯定的回答で昨年同値の高い水準に至っており、“我が子を通じて良かった”“授業に先生方の熱意が感じられる”の点を通して、学校への信頼度の高さが垣間見える。保護者会としても安心できる環境である。学校側としても、さらに信頼を得られるよう、創意工夫をしながら、努めますと答える。</p>
<p>・保護者としてこの学校に子供を通わせて満足している。 (R.元年(2019年度)度：81.2% H.30年度：82.3%)</p>	<p>②先生方の自己評価の中で、保護者会として関心を寄せているのが、昨年同様、環境教育(No17:意識の向上, No18:実践的態度の育成)と、社会性の育成(No22:情報モラルについて, No23:社会的モラル・ルールについて)である。進学校として軽視しがちな点であるが、将来社会生活を営んでいく上で、極めて重要な指導観点と考える。前者は2項目平均、昨年比+2.7%であるが69.2%、後者は2項目平均で昨年比+4.7%の82.9%に至る。この分野の教育・育成は直接的ではないが、新教育改革の中で、求められる人物像には必須のものであり、大きな意味のある内容である。また、生徒支援(No26:学習指導について、No.27 生徒把握)に関しても、様々な状況の生徒が在籍する中で、重要視して頂きたいとの要望があった。今後とも引き続き指導・育成に努めますと答える。</p>
<p>・授業に先生方の熱意が感じられる。 (R.元年(2019年度)度：79.8% H.30年度：81.3%)</p>	<p>③大学入試改革がスタートし、現2年生より、センター試験が共通テストへと移行し、多くの変化がみられる激動期、2021年度入試で、新年度高校3年生が、不安なく、希望の進路先が確保できるように、くれぐれもご指導をお願いしたいとの要望があり、学校側もしっかり受け止め、進路指導部中心に、情報収集し、教員が共有できるように、今後とも教員研修を継続し、安心頂けるよう、今後の指導に活かしていきますと答える。</p>
<p>【教職員】</p>	<p>④職員自己評価の分類の“生徒指導”において、評価項目(11項目 No24～No34)全てが一昨年、昨年度に引き続き評価されており、保護者会としても安心して、今後とも生徒・保護者・学校の連携をしっかりと、指導を進めていきたいと思う。ただ、保護者会からもご指摘があったように、教職員研修の5項目のうち、3項目において肯定的な回答が得られていないことに学内でも、多忙な中でも、可能な限り研修に参加し、研修参加者より学内にフィードバックができるようなシステムを構築したいと考えている。</p>
<p>・教員は授業に対する十分な教材研究・事前学習に努めている。 (R.元年(2019年度)度：83.6% H.30年度：82.5%)</p>	<p>【学校運営全体】</p>
<p>・生徒はしっかりと集中して授業を受ける態勢が出来ている。 (R.元年(2019年度)度：72.6% H.30年度：77.5%)</p>	<p>・生徒と保護者の全体質問(生徒：40問、保護者：38問)に対する肯定的回答比率(四捨五入で7割を肯定目途とする)は、生徒で昨年度と同値の80.0%、保護者が前年比+2.7%の94.7%となる。</p>
<p>・教員による自己評価では、全体質問で45問に対する肯定的回答比率(上記の生徒と保護者の尺度同様7割を肯定の目途とする)は、前年比±0%の73.3%であった。</p>	

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指数	自己評価
<p>(1) 知育尊重と人間教育</p>	<p>1. 進学指導の充実と進学実績の向上</p> <p>あ) 3 い) 3 8 う) 3 9 え) 4 0 お) 4 1 か) 4 2</p> <p>2. 生徒を集中させる熱意ある教科指導</p> <p>あ) 1 9 い) 2 1</p> <p>3. 文武両道の推進・強化クラブの戦績向上</p> <p>あ) 3 い) 2 6・2 7</p>	<p>1. あ) 教員間の信頼関係のもと、生徒の学校生活向上のため様々な教育的情報交換を積極的に行い、教育活動に活かせるように努めている。 い) 生徒の実態・実情に即し、授業内容や教材について適宜職員間で意見交換をし、授業や指導に役立てよう努めている。 う) 中高間の分掌移動時や経験の少ない教職員(新任を含む)をサポートする体制(チューター制度)は整っている。 え) 機会をとらえ適宜研修に参加するように努めている。また、必要に応じて講師を招聘し、効率的・効果的に学内研修に参加できる体制も整っている。 お) 研修に参加した教員は、出来る限りその成果を他の教員と共有するよう情報交換に努めている。 か) 教職員の資質向上の意欲を喚起するため、生徒の成績分析会を適宜開催したり、またそれに代わる参考資料提供に努めている。</p> <p>2. あ) 教員は授業に対する十分な教材研究・事前準備に努めている。 い) 学習内容はクラスのグレード編成に応じて効果的に展開されている。</p> <p>3. あ) 教員間の相互理解・信頼関係に基づき教育活動を実践する。 い) 個々の生徒について状況などを把握する体制を整える。</p>	<p>1. あ) 70%以上 い)~か) の平均指数 70%以上</p> <p>2. あ)~い) の平均指数 80%以上</p> <p>3. あ) 70%以上 い) の平均指数 80%以上</p>	<p>1. あ) 2017年度まで60%台であったが、2018年度75.0%で、今年度は8割越えに至った。これは、拡大学年会議実施の定着が大きな要因である。(学年の授業担当者全員を構成メンバーとし、生徒の様々な情報を交換し教育活動に活かすべく、原則学期に1回の開催)職員間の情報交換の意識の活発化につながり、昨年度も予想を越えたが、本年度はさらに82.2%まで一気に伸びる(◎)。今後もさらに充実した会議体の継続を目指す。 い~か) この項目群は例年、学校運営協議会の議場で、保護者会会長より要望(教育の深さを求める為、研修の充実)がある箇所である。数字の検証であるが、過去3年間平均は53.0%【H30:58.3%,H.29:55.1%,H.28:45.5%,】で、今回は過去3年を凌駕し昨年度より増加し、+10.5%の63.5%に至る(△)。今年度は5項目のうち、昨年、評価指数に達した、か) No42も71.2%まで、え) No40も昨年比+11.5%の63.8%まで伸びており、今後に期待が持てる。低迷は、今年度もお) No41である。なかなか個人で参加する機会も少なく、参加しても情報共有まで手が回っていないのが実情である。今後学内外で大勢が参加・情報共有できる機会を可能な限り設けるつもりである。</p> <p>2. あ・い) の平均指数は78.8%【昨年:80.7%、一昨年:87.2%】となる(△)。本年度の平均値内容は、あ)No19:83.6%,い)No21:74.0%でグレード編成による少人数指導こそ、効果的に展開されていく必要があると考える。あ)No19の教材研究に工夫を凝らし、い)No21への効果につなげていきたい。生徒アンケートを検証すれば、という生徒から肯定的回答がある。生徒の期待に背かない様、自己評価のあ)・い)の伸びにつながるように、更なる研鑽に努めたい。</p> <p>3. 強化クラブ生在籍コースは例年通りあ・い)の観点で検証する。 あ)に関しては、上記自己評価1-あ)と同様で、本年度は(◎)。 い)H.30年度は前年比+0.7%の79.5%、ほぼ横ばいである(△)。各強化クラブで、各個人に適切な指導を徹底するために、担任・教科担当とも密に連携をとることが肝要である。また、大学入試改革で、学科試験を伴う試験も増加する中、習熟度別クラス編成の効果がさらに期待できるように創意工夫をしていく。</p>
<p>(2) 信と創り立 つて100 年を 飛躍 を 目 指 す た め に 、 進 学 校 私 学 履 正 社</p>	<p>1. 生徒・保護者・中学校からの信頼づくり</p> <p>あ) 2 4・2 6・2 7・2 8・3 0・3 2 い) 2 5・2 9・3 1・3 3 う) 3 4</p> <p>2. 地域に信頼される学校づくり</p> <p>あ) 1 1・1 2</p>	<p>1. 生徒・保護者には次のあ~い)の観点を信頼作りの基盤とする。また、生徒の出身中学校に対しては、う)の観点を信頼作りの基盤とする。 あ) 生徒の生活指導・進路指導・欠席過多の場合、組織的に対応する体制を整える。 い) 上記あ)に対する指導は、常に保護者と連携を取り学校と家庭の両輪で指導を行う。 う) 生徒の転・退学に至るまでの十分な指導と保護者・出身中学校との密な連携を常に心掛ける。</p> <p>2. あ) の観点では、地域住民に対し、施設・設備の貸し出しや、交流を積極的に図る。</p>	<p>1. あ) の平均指数 80%以上 い) の平均指数 80%以上 う) の平均指数 80%以上</p> <p>2. あ) の平均指数 70%以上</p>	<p>1. あ) の生徒・保護者に対する本年度平均指数は昨年比+3.1%、過去3年平均対比は+5.7%の80.4%と、今年度、評価平均指数に達した(○)。次年度も機能充実に一層努めていく。 い) の本年度平均指数は昨年比+0.6%、過去3年平均対比は+3.3%の86.3%に至り、ここ数年は85%超えで推移している。学校と家庭との両輪指導の定着が窺われる(◎)。本年度の保護者アンケート4&17(平均82.8%)からも信頼度の数字的な検証ができる。 う) R.元年度は前年+1.3%、過去3年平均対比は+5.1%の86.3%に至る(◎)。転・退学に至るケースは残念なことであるが、生徒自身の将来を考慮する上で、時には、生徒の健康面などを考慮し、教育的観点より避けられない場合もある。担任や学年が家庭や出身中学校との連携を大切にしている結果であると評価する。</p> <p>2. あ) 過去3年間平均値も73.4%まで回復してきた。職員間にその意識が浸透してきている。本年度平均は前年+3.9%の87.7%と昨年同様評価できる(◎)。文化祭をはじめ、近隣小学生・住民参加型の年1回の天体観測会(中学部主催)や、生涯教育では施設貸与の上、指導者も本校職員で貢献していること、また、中高のクラブ活動での試合会場校として貢献している等の実態を、職員が正しく理解し、協力していると評価する。</p>
<p>(3) 環境・システムの醸成</p>	<p>心豊かで潤いのある学校生活</p> <p>あ) 6・7・8 い) 9・10 う) 17・18</p>	<p>あ) ホームページによる情報公開、学校・学年・学級から保護者への文書による情報提供や授業公開を定期的に行うなど、開かれた学校づくりに努める。</p> <p>い) 危機管理マニュアルを踏まえ、警察・消防や関係機関との連携に努め、適切な校内訓練のシステムを構築する。</p> <p>う) 環境教育の一環として、ゴミの分別・日々の清掃指導の徹底を図る。</p>	<p>あ) の平均指数 80%以上 い) の平均指数 80%以上 う) の平均指数 80%以上</p>	<p>あ) の平均指数は、4年連続評価指数を満たしていたが、R.元年度は昨年比で+1.1%、過去3年間平均で-4.8%の79.0%となり、昨年同様、評価指数に届かなかった。中高HP委員会も従来通り機能しているが、さらに工夫が必要である。昨年落ち込んだ、あ)No7も、保護者アンケート(No31)も昨年同様、8割に届いておらず、保護者が安心できるように工夫をしていくつもりである(△)。 い) 生徒・保護者のR.元年度の結果は共に70%超えであるが、職員の自己評価では、過去3年平均より-2.7%、昨年比-1.3%の64.4%に留まる(X)。年2回の訓練のみではなく、常に生徒の安全を守る為に、災害の多い近年の大きな課題として、さらに学内での体制を整えていかなければならない。 う) 学校運営協議会の第3回目で保護者会会長が言及されたが、R.元年度は昨年比で-2.7%、過去3年間平均で+3.9%の69.2%であった(△)。過去3年平均値が伸びたのは新校舎完成が要因と考えるが、まだまだ評価指数には届かない。公共の施設を、自らの手で、美しく保とうと日々気持ちを平素より常に持つことが肝要である。新しい校舎を自分たちで美しく保ち、心地よい環境、過ごし易い環境こそ人をつくるものである事に気づかせ、教員が先頭に立って、環境の大切さを生徒達に徹底していきたい。</p>